

平成27年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

本校では平成27年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果について公表することになりました。

教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、発達途上の子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況と意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、6年生は全国学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数(数学)共にA問題、B問題という2種類のテストで成り立っています。おおむねA問題は基本的な問題、B問題は思考力を要するような問題です。さらに今年度からは、新たに6年生の理科のテストも加わっております。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（山内西）小学校

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H23 入学 現5年	48.1 (0.77)			54.1 (0.83)			
H22 入学 現6年	65.9 (0.97)	72.3 (1.03)	59.8 (0.93)	59.3 (0.99)	72.2 (0.97)	40.5 (0.93)	56.3 (0.92)
H27 正答率の全国比		(1.03)	(0.91)		(0.96)	(0.90)	(0.93)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・5年は、国語・算数において、県平均を0.2程度下回っている。国語において、「読む」「知識・理解・技能」を身に付ける必要があり、算数においては、「考え方」「知識・理解」を身につける必要がある。
- ・6年は、国語A（主として知識）は、県全国とも0.03上回っているが、算数A（主として知識）、国語B算数B（主として活用）、理科において、わずかに県平均を下回っている。国語の「活用」「話す・聞く」、算数の「活用」「考え方」、理科の「技能」を身につける必要がある。
- ・5年は、各教科への「興味・関心・意欲」が高く、国語・理科が好きな子どもは、県平均を25%以上上回っている。

- ・6年は、各教科を勉強することの大切さには気づいているが、勉強が好きな子どもは、県平均をやや下回っている。
- ・国語・算数による少人数指導や基礎基本の習得に向けた「やる気タイム」「計算タイム」などの取り組みを行った結果、5年6年の算数において、「技能」は、平均正答率が70%と県平均並になってきている。
- ・校内研究や特色ある学校づくりにより、言語活動や伝え合う力の育成を図ったが、5年6年ともに、「話す・聞く」が県平均を下回っている。
- ・5年6年とも、「宿題」への取り組みは、県同等にできているが、「予習」「復習」「家庭学習」「自分で計画を立てて学習したり、苦手な教科の学習を自主的に行ったりする」ことが県平均をやや下回る。
- ・5年においてICTを活用した授業はわかりやすいし、楽しいと70%の児童が答えている。
- ・5年6年において読書が好きなお子どもが40%程度で、県平均を10%程度下回っており、6年においては、家庭での読書の時間や図書館・図書室に足を運ぶ回数が県平均を下回っており、「朝読タイム」「音読タイム」「読み聞かせ」などにより、読書への興味・関心を高めるとともに家庭への奨励が必要である。
- ・5年6年とも家庭でのテレビの時間やゲーム、スマートフォンなどを使用する時間が多く、学習に取り組む時間が2時間以下である。
- ・5年6年とも朝食は90%以上の子どもが、毎日食べてきているが、寝る時間や起きる時間が定まっていない児童が多く、生活習慣のリズムを身に付ける必要がある。
- ・5年6年において地域の行事に参加している児童は、40%と県平均程度であるが、地域や社会で起こっている出来事に対する関心が県や全国を10%程度下回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

- ・国語・算数科を中心とした習熟度別学習の充実を図り、TT及び少人数による指導方法や指導体制の工夫改善を行う。
- ・学ぶ意欲が高まり知識・技能を確実に習得していくような秋田県の学習形態や西部型授業を実態に応じて取り入れ、授業スタイルについて職員間の共通理解を図るとともに、共通の自己評価項目を設定し、指導方法改善に役立てる。
- ・5年6年ともに、「話す・聞く・書く」が県平均を下回っているので、「学び合い活動」「音読タイム」などで言語活動の充実をさらに図っていく。

②学ぶ意欲の高揚のための工夫

- ・ICT利活用における授業作りの工夫（電子教科書の活用、スマートボードなど電子黒板の活用、タブレット型端末の有効活用、スマイル学習、電子教材開発）を行うことにより、学習の効果を高めるとともに、学習の目標を意識させ、視点や見通しをもって学習に取り組ませる。
- ・学び合いの学習形態の工夫（2人で、グループで、みんなで）
- ・意識調査において、達成感や成就感、自己肯定感を十分もっている児童が県や全国を下回っているため、構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどにより支持的風土を高めるとともに、生き甲斐をもって学校生活を送れるように意欲を高めていく。

③望ましい学習習慣・態度の育成の工夫

- ・立腰教育の推進を図り、学ぶ姿勢・態度を徹底させる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

- ・朝の時間を利用した「漢字検定」「算数検定」「すくすくテスト」「計算タイム」「朝やる気タイム」の実施により、小刻みに学習状況を把握し、放課後の時間を利用した「後やる気タイム」により、繰り返しチャレンジによる基礎学力の向上を図る。
- ・「朝読書」「立腰タイム」の推進による学習に向かう姿勢の高揚を図る。
- ・5年6年の読書への「関心・意欲・態度」を高めるとともに、文字への抵抗感をなくすために、朝読書の習慣化を図ったり、余裕時間に読書に親しませたりする。
- ・「音読タイム」により、文字にふれる機会をふやすとともに、「読み聞かせ」の時間を通じて、本のよさにふれさせ、図書館や図書室に足を運ぶ回数を増やす。
- ・「生活振り返り週間」「ノーテレビデー」による家庭での学習習慣、生活習慣の実態把握と、学校での学習習慣の改善。
- ・「家庭学習のてびき」「学びのすすめ」「音読タイム」を活用した言語活用能力の育成を図る。
- ・スマイル学習の充実による、家庭による予習学習の習慣化と学校授業での学び合いの強化と深化を図る。
- ・「学びのすすめ」を参考にして家庭学習の意識付けをし、自主学習の形体の共通理解や習慣化を図り、自分に応じた補充学習ができるようにするとともに、学校新聞や学級通信を活用したり、授業参観の機会を活用したりして、家庭での生活習慣の改善を図る。
- ・地域や社会への関心を高めるために、地域行事を紹介したり、参加を奨励したりするとともに、教師自ら地域行事に出向き、参加児童を励ます。